

冬季の火傷に注意しましょう

火傷とは

熱によって皮膚の組織が破壊されることです。深さによってⅠ度～Ⅲ度に分けられます。

Ⅰ度（皮膚の表皮）は、浅いもので皮膚が赤くなります。

Ⅱ度（皮膚の真皮）は水ぶくれができます。軽い場合傷は残りませんが、深いものは傷が残ります。

Ⅲ度（皮下組織）は、焦げてしまうような、そして深い傷です。手術や入院治療が必要です。

※範囲は狭くても顔や陰部の火傷などは、部位によって重症と判断される場合もあります。

低温火傷とは

電気毛布や使い捨てカイロ・ホットカーペット等でおこる火傷です。低温ですが長時間同じ部位にあてていると起こります。特に子どもの皮膚は薄いので重症化するおそれがあります。電気毛布や湯たんぽは、取扱説明書を守って正しく使いましょう。乳幼児は、自分で体勢を変える力が十分でない為、長時間同じ部位を温めないように保護者が注意する必要があります。

<応急処置の方法>

- ・清潔な流水ですぐに20分程度冷やします。氷ではなく、流水で流し冷やします。乳幼児の場合冷やしすぎに気をつけてください。広い範囲を長時間冷やすと低体温症などになる可能性があります。
- ・火傷が酷い場合には、皮膚と衣類がくっついてしまうことがあります。衣類を無理に脱がす必要はありません。衣類の上から冷やしましょう。水ぶくれや水疱がある場合には、破らないよう冷やす際には、水の勢いにも気をつけましょう。もし破れてしまった場合には、冷やした後に清潔なガーゼなどで覆いましょう。
- ・水疱や水ぶくれになった場合には、潰さないでください。細菌感染するリスクがあり、悪化させる原因にもなります。
- ・スポーツ時や打ち身などで使用する冷却スプレーや熱さまし冷却シートは、火傷治療には効果がありません。
- ・民間療法でアロエが火傷に効くなどありますが、アロエ自体に細菌がついている場合もあるので行わないでください。

※まずは、**あわてない**こと。そして、火傷の場所とどの程度の火傷なのかを観察し処置をしましょう。

乳幼児は体表面積が小さく免疫力も低いので、すぐに**病院受診**しましょう。

こんな場所・場面でも火傷が起こっています。

<ウォーターサーバー>

- ・ロックが外れお湯が出た
- ・水ではなく誤ってお湯を注いでしまった

<携帯やコード>

- ・破損した充電器などの接触部分が高温になり触ってしまった
- ・充電したままや使い過ぎたときに携帯本体が熱くなっていた

<車の中>

- ・夏場の車の中は、シートや窓付近などとても熱くなっています。皮膚が薄い乳児が触ってしまい、掌の皮が全て剥けてしまった事例もあります。

※ポットやストーブなど明らかに熱い物以外でも火傷は起こります。ご家庭で危険な場所や物がないか再度確認してみてください。